

## A-XIV-7

### 中部療護センター退院患者の在宅介護の現状 ～アンケート調査から介護の負担を検討する～

木沢記念病院 中部療護センター

○小澤千草 田中陽子 遠山香織 石山光枝

**【目的】**遷延性意識障害患者を介護する家族の介護負担の研究は少ない。今回、当センターを退院した患者の在宅での状況を調査した。結果から、家族の介護の負担について問題が明らかになった。その問題について検討したので報告する。

**【方法】**対象は、当センターを退院した患者104名。研究用に作成したアンケートに沿って電話にて聞き取り調査した。その結果を日本語版Zarit介護負担尺度短縮版の8項目にあてはめ検討した。

**【結果】**対象患者104名中、79名に調査の協力が得られた。現在、在宅介護中の患者は46名であった。患者の状態:気管切開あり 18名(39%)なし 28名(61%)経口摂取 15名(33%)経鼻栄養 6名(13%)胃瘻 25名(54%)社会資源の利用頻度:ショートステイ利用あり 14名(30%)なし 32名(70%)デイサービス利用あり 30名(65%)なし 16名(35%)

日本語版Zarit介護負担尺度短縮版の8項は、「介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか?」74%「介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか?」54%「介護を誰かに任せたいと思うことがありますか?」52%の順で「はい」の答えが高値であった。また「介護を受けている方のそばにいと、腹が立つことがありますか?」では、9%と低値であった。

**【考察】**結果から介護者の自由時間の束縛への影響があることが分かった。これは要介護高齢者と同じ結果である。要介護高齢者では行動障害が原因で介護者の自由時間の束縛となる。それに対し、当センター退院患者は気管切開や胃瘻があり医療行為が多いため、ショートステイの受け入れが少ないことも一つの原因である。意識障害患者の社会資源の活用についても考えていく必要がある。